

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)京都役行者開発

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				建物内の騒音レベル:40db	4.0	0.15	4.0	1.00	4.2
1.2 遮音					5.0	0.40	4.1	0.40	
1 開口部遮音性能				開口部遮音性能:T-2	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				界壁遮音性能:D50	-	-	4.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				界床遮音性能(軽量衝撃音):L値45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				壁と床に吸音材(壁:グラスウール系吸音材 床:カーペット)を採用している	4.0	0.20	4.0	0.20	
2 温熱環境									
2.1 室温制御					3.5	0.50	3.8	0.50	3.3
1 室温					3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能				開口部のU値:2.9	5.0	0.25	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性					3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境									
3.1 昼光利用					2.8	0.25	3.4	1.00	3.1
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	2.6	0.30	2.6	0.30	
2 方位別開口					1.0	0.60	1.0	0.60	
3 昼光利用設備				●自然 B(推奨内容)	-	-	-	-	
3.2 グレア対策				格子状ルーバーと庇を採用している	5.0	0.40	5.0	0.40	
1 昼光制御				●自然 B(推奨内容)	3.0	0.30	5.0	0.30	
3.3 照度				宿泊部:格子状ルーバーにブラインドを採用している	3.0	1.00	5.0	1.00	
3.4 照明制御					3.0	0.15	3.0	0.15	
					3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策					3.5	0.25	3.8	1.00	3.6
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している	4.0	0.50	4.0	0.63	
4.2 換気					4.0	1.00	4.0	1.00	
1 換気量					3.0	0.30	3.6	0.38	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				自然換気有効開口面積が、居室面積の1/10以上	-	-	5.0	0.33	
4.3 運用管理					3.0	0.50	3.0	0.33	
1 CO ₂ の監視					3.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御					-	-	-	-	
					3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ					3.6	0.40	4.6	1.00	4.1
1 広さ・収納性				ツイン床面積:40㎡以上としている	3.0	0.40	5.0	0.60	
2 高度情報通信設備対応				Gbitクラスのプロードバンドが利用可能な環境を確保している	-	-	5.0	0.50	
3 パリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観(天井高)				●とも C(独自加点)	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				借景を取り入れ、空間の広がりを与えている	-	-	-	-	
3 内装計画				●自然 D(独自基準)	4.0	1.00	4.0	0.50	
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				評価する表の取組みの合計が6ポイント	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				評価する表の取組みの合計が8ポイント	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.2	0.30	-	-	3.2
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.50	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.6	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					2.0	0.20	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				カーペット敷の採用:耐用年数20年	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				屋外露出部および厨房排気ダクトはガルバニウム鋼板を採用している	5.0	0.10	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				主要な用途上位3種の2種類以上にB以上採用し、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
					3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			評価する表の取組みの合計が3ポイント	4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			評価する表の取組みの合計が3ポイント	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.4	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり					-	-	1.8	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区内にあり、「低炭素景観の創出」に寄与する項目の過半数について取り組んでいる	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)	評価する表の取組みの合計が4ポイント	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.89	4.1	0.20	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	格子状ルーバーの採用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	2.8
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				洗面水栓には、節湯水栓を採用し、便所には節水型便器を採用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				既存の構造躯体を再利用している	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	リサイクル材を3品目採用している(屋根断熱材・ビニル床シート、ボード)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	GL工法の採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつ、GWP100年値が1以下の断熱材を使用している	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮				LCCO2:87%	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮					2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	ガラスからのグレアを低減させるため、格子状ルーバーを採用	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」ともに使う 「自然」:自然からつくる